

広報
No.2570

ITABASHI

4.1

令和5年・2023年

特集版

発行/板橋区 編集/広聴広報課 〒173-8501 板橋区板橋2-66-1 FAX 3579-2028(広聴広報課) <https://www.city.itabashi.tokyo.jp/> 区役所代表 ☎ 3964-1111





絵本でつながる板橋

区では、区民のみなさんと一緒に、「絵本」をキーワードにした様々な事業を展開しています。
「絵本のまち板橋」で新たな絵本文化に触れてみませんか。

問合 政策企画課ブランド・SDGs係 3579-2515

絵本を楽しむ

いたばしボローニャ絵本館
中央図書館内に併設され、イタリア・ボローニャ市から寄贈された絵本を中心に、世界約100か国・70言語・3万冊の絵本を所蔵しています。

日本語版・外国語版の同じ絵本を「セット絵本」としてそろえています。様々な言語で、絵本の読み比べを楽しめます。

中央図書館 講演会シリーズ

●シニアの読み聞かせ ボランティア

区立各図書館では、乳幼児～小学生向けの読み聞かせのほか、外国の絵本・昔話の読み聞かせや、赤ちゃん向けの紙芝居・手遊びを行っています。



世界の書棚から

在日大使館職員・各言語の翻訳家による、各国注目の絵本作家・作品や最新出版事情に関する講演です。海外の絵本や文化について知りたい方におすすめです。

On the table

絵本編集者による、1冊の絵本が完成するまでの過程・制作秘話に関する講演です。絵本をより深く楽しみたい方におすすめです。

平和の絵本
「いわたくんちのおばあちゃん」に託された多くの方々の思いを、会場の皆さんに直接お伝えすることができました。
編集者として、とてもうれしい機会でした。

On the table
第7回講師
和田千春さん

絵本のまち板橋とは…

区では、友好都市であるイタリア・ボローニャ市との交流や、印刷産業が多く立地する特徴を活かし、板橋ならではのブランドとして、絵本文化を発信しています。

「みんな」
子どもからおとなまで、絵本をつくる人も読む人も。

「いろいろ」
絵本を読んだり、つくったり、印刷したり、販売したり。絵本と遊んだり、学んだり。

「ここで」
イタリア・ボローニャ国際絵本原画展で知られる区立美術館やいたばしボローニャ絵本館があり、印刷・製本産業の盛んな板橋で。

事業の最新情報など
詳しくは
区ホームページを
ご覧ください



イタリア・ボローニャ 国際絵本原画展

区立美術館では、イタリア・ボローニャ市で行われる世界最大級の規模を誇る絵本原画コンクールの入選作品を展示しています。多彩な表現・テーマ・技法による絵本原画を楽しめます。

絵本は多様な世界への入口

令和2年のイタリア・ボローニャ国際絵本原画展では、区立美術館は「『見る』を超えて」という特別展示を企画し、イタリアの「さわる絵本」を展示しました。「さわる絵本」は、視覚障がいがある方に向けた、触って観賞する絵本ですが、視覚的にも美しく、表現として非常に魅力があります。

原画展には、視

覚障がいがある方
・ない方などいろんな方が来てくれました。その際、「さわる絵本」の「可



愛い」「綺麗」などの視覚的な情報を、視覚障がいがある方も「触る」という体験を通して参加・共有できたので、とても喜ばれました。

美術館は、展示作品それぞれに個性があるからこそ魅力があり、多様性をポジティブに感じができる場です。絵本もその入口として、文化の違い・個性を認め合い、受け入れるために重要なものだと思います。

当館では、今後も、絵本の可能性・多様性を発見できる展示・ワークショップなどを企画していきますので、ご注目いただければと思います。



夏のアトリエ

区立美術館では、イラストレーターを対象に、絵本制作の総合的・専門的な指導を行うワークショップを行っています。国内外の編集者・作家などを講師に迎え、実践的に学ぶことができます。



こどもアトリエ



区立美術館では、3歳～小学生のお子さんとその保護者を対象に、造形あそびを楽しむ講座を行っています。絵本作家・アーティスト・デザイナーなど、様々なジャンルで活躍する講師陣が魅力です。

区内には絵本の 印刷・製本会社が 数多くあります



「良き読者を育むための良質の絵本づくり」を心がけ、絵本製作を行っています。作家・地域とともに、板橋を絵本で満たしたいと考えています。



いたばし 国際絵本翻訳大賞

いたばしボローニャ絵本館では、外国の文化に触れ、国際理解を育むため、課題絵本(英語・イタリア語)の翻訳作品を募集するコンテストを行っています。大賞の作品は絵本として出版されます。

板橋区民まつりで 「絵本のまちひろば」を開設！

昨年の板橋区民まつりでは、大学・企業・絵本作家などと連携し、絵本の魅力を発信する「絵本のまちひろば」を開設しました。

今後も、「絵本のまち板橋」をさらに推進していくため、板橋区民まつりをはじめ、様々な場面を活用し、区民のみなさんとともに取組を広げていきます。



区立美術館長
松岡希代子さん



赤塚植物園で春を楽しもう!

花いっぱいの赤塚植物園で春のひとときを楽しみませんか。

ところ・問合

赤塚植物園☎3975-9127(月曜、第1・3・5火曜事務室休み)

赤塚植物園は、昭和56年に、赤塚の丘陵地を活用し、自然・植物をより身近に親しむ施設として作られました。約1.2haの敷地に600種以上の樹木・草花が植えられています。近くには、区立美術館・郷土資料館・都立赤塚公園などがあり、自然に恵まれた散策コースとしても人気です。

植物の名前などを調べたいときは赤塚植物園へ

私たちにご相談ください

緑化教育指導員が、植物に関する質問にお答えします。また、みどりの学習室には、様々な植物図鑑・園芸関係の参考図書を取りそろえています。ぜひ、ご利用ください。



農業園

子ども向け農作業体験用の畠や、野菜の花・果樹などを見て楽しむポタジェ・果樹園などがあります。



万葉・薬用園

万葉集に詠まれた植物や薬用植物を見ることができます。



本園



車いす・ベビーカーでも園内を回れます

本園

バラ園・桜の園・四季の道などのエリアで、四季折々の植物を楽しむことができます。園内のウェルカムセンターでは、園の案内・各種情報発信を行っています。



区の花ニリンソウが見頃です

白い花を2輪ずつ咲かせる春の花で、昭和55年に区の花に選定されました。赤塚植物園では、2か所でニリンソウが見られます。開花状況は、区ホームページをご覧ください。



5月13日(土)・14日(日) グリーンフェスタ2023を開催!

参加型・体験型の催しや、クラシックコンサート・出張子ども動物園など、親子で楽しめる内容が盛りだくさん! 詳しくは、今後発行の「広報いたばし」でお知らせします。

春のみどころ



ハンカチノキ

白いハンカチが、木いっぱいにぶらさがっているように見えます。



ブラシノキ

長い雄しべがブラシのように見えることから、名づけられました。



ユリノキ

花は黄色のチューリップに似ていて、蜜蜂が集まります。



サクラソウ

サクラに似たピンク色の花の形にちなんで名づけられました。



ボタン

奈良時代に中国から渡来し、花の豪華さから「百花の王」と言われています。



タチバナ

日本固有のかんきつ類で、神聖な樹として古事記・日本書紀・万葉集に登場しました。

交通案内

- 東武東上線「成増」から「赤羽駅西口」・「志村三丁目駅」行きバスで「赤塚八丁目」下車5分
- 都営三田線「高島平」から「成増駅北口(区立美術館経由)」行きバスで「区立美術館」下車5分
- 都営三田線「新高島平」からコミュニティバス「りんりんGO」で「区立美術館入口」下車5分

グリーンライフ

ニワトコ(接骨木)

ガマズミ科ニワトコ属の落葉低木。4月頃、枝先に白い小さな花を多数つけます。日本原産のものとヨーロッパなどに分布するセイヨウニワトコがあり、どちらもよく似ています。有名な映画に登場する魔法使いの杖は、セイヨウニワトコが使われています。

日本では、芽吹きが早いため、「芽でたい木」として切花などに使われます。

ニワトコは、園正面入口から入って左側にあります。



問合赤塚植物園☎3975-9127
(月曜、第1・3・5火曜事務室休み)
※植物に関する相談を受け付けています。

広報番組

魅力発信!いたばしナビ4月号

今月のテーマは…

いたばし人と未来を創る会社賞

- ▶ 視聴方法 = YouTube区公式チャンネル(区ホームページ参照)、J:COMチャンネル(毎日12時・20時)※区政資料室(☎3579-2020)でDVDの貸出を行っています。
▶ 問 = 広聴広報課報道係☎3579-2025



いたばし 2023
人と未来を創る会社賞